(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3205055号
(U3205055)
(45)発行日　平成28年6月30日(2016.6.30)　(24)登録日　平成28年6月8日(2016.6.8)

(51)Int.Cl.　　F I
A45C 7/00 (2006.01)　　A45C 7/00 S

評価書の請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 6 頁）

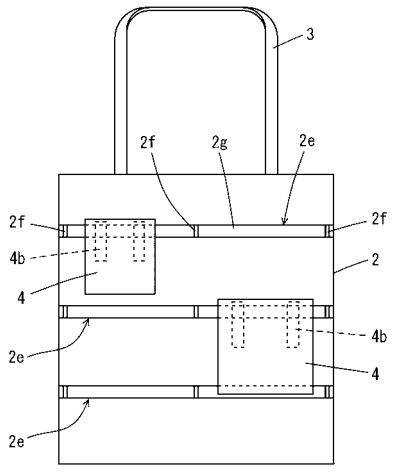
(21)出願番号　実願2016-1839(U2016-1839)
(22)出願日　平成28年4月21日(2016.4.21)

申請有り

(73)実用新案権者　515298121
株式会社ヤマザキ
大阪府大阪市浪速区戎本町一丁目９番２８号
(74)代理人　100078813
弁理士　上代　哲司
(74)代理人　100094477
弁理士　神野　直美
(72)考案者　山嵜　潤
大阪府大阪市浪速区戎本町一丁目９番２８号　株式会社ヤマザキ内
(72)考案者　野口　純
大阪府大阪市浪速区戎本町一丁目９番２８号　株式会社ヤマザキ内

(54)【考案の名称】バッグ

(57)【要約】　（修正有）
【課題】使用者のバッグの機能性に対する要求に柔軟に対応することができると共に、デザインに対する好みにも柔軟に対応することができるバッグを提供する。
【解決手段】外側表面の幅方向に沿って、付属部材を取り付けることができるテープ状部材２ｅが設けられた袋状のバッグ本体２と、バッグ本体２の高さ方向に沿って延びる帯状のベルト材４ｂが裏側に設けられた付属部材とを備えており、付属部材の帯状のベルト材４ｂの一端をバッグ本体２のテープ状部材２ｅを挟み込むように通した後、帯状のベルト材４ｂの他端と係止させることにより、付属部材がバッグ本体２の外側に取り付けられる。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
外側表面の幅方向に沿って、付属部材を取り付けることができるテープ状部材が設けられた袋状のバッグ本体と、
前記バッグ本体の高さ方向に沿って延びる帯状のベルト材が裏側に設けられた付属部材とを備えており、
前記付属部材の帯状のベルト材の一端を、前記バッグ本体のテープ状部材を挟み込むように通した後、前記帯状のベルト材の他端と係止させることにより、前記付属部材が前記バッグ本体の外側に取り付けられることを特徴とするバッグ。
【請求項２】
前記バッグ本体のテープ状部材が、２～３本設けられていることを特徴とする請求項１に記載のバッグ。
【請求項３】
前記付属部品が、中に小物を収納するポーチであることを特徴とする請求項１または請求項２に記載のバッグ。
【請求項４】
前記ポーチの形状が、方形、円形、半円形のいずれかであることを特徴とする請求項３に記載のバッグ。
【請求項５】
前記ポーチが、ガマ口またはガマ口ポーチであることを特徴とする請求項３または請求項４に記載のバッグ。
【請求項６】
トートバッグ、フラットバッグ、ボストンバッグのいずれかであることを特徴とする請求項１ないし請求項５のいずれか１項に記載のバッグ。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、使用者のバッグの機能性に対する要求に柔軟に対応することができると共に、デザインに対する好みにも柔軟に対応することができるバッグに関する。
【背景技術】
【０００２】
トートバッグ、フラットバッグ、ボストンバッグなどのバッグについては、従来より、その機能性、即ち、使い勝手の良さを考慮して、様々な提案がなされている（特許文献１、２）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】実開昭５９－４１１１１号公報
【特許文献２】実開昭５９－４１１１２号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、近年、バッグの機能性に対する要求は益々多様化しており、これらの要求に個別に対応することが困難となっている。また、バッグのデザインに対する好みも増々多様化している。
【０００５】
そこで、本考案は、使用者のバッグの機能性に対する要求に柔軟に対応することができると共に、デザインに対する好みにも柔軟に対応することができるバッグを提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】

【０００６】
請求項１に記載の考案は、
外側表面の幅方向に沿って、付属部材を取り付けることができるテープ状部材が設けられた袋状のバッグ本体と、
前記バッグ本体の高さ方向に沿って延びる帯状のベルト材が裏側に設けられた付属部材とを備えており、
前記付属部材の帯状のベルト材の一端を、前記バッグ本体のテープ状部材を挟み込むように通した後、前記帯状のベルト材の他端と係止させることにより、前記付属部材が前記バッグ本体の外側に取り付けられることを特徴とするバッグである。
【０００７】
請求項２に記載の考案は、
前記バッグ本体のテープ状部材が、２～３本設けられていることを特徴とする請求項１に記載のバッグである。
【０００８】
請求項３に記載の考案は、
前記付属部品が、中に小物を収納するポーチであることを特徴とする請求項１または請求項２に記載のバッグである。
【０００９】
請求項４に記載の考案は、
前記ポーチの形状が、方形、円形、半円形のいずれかであることを特徴とする請求項３に記載のバッグである。
【００１０】
請求項５に記載の考案は、
前記ポーチが、ガマ口またはガマ口ポーチであることを特徴とする請求項３または請求項４に記載のバッグである。
【００１１】
請求項６に記載の考案は、
トートバッグ、フラットバッグ、ボストンバッグのいずれかであることを特徴とする請求項１ないし請求項５のいずれか１項に記載のバッグである。
【考案の効果】
【００１２】
本考案によれば、使用者のバッグの機能性に対する要求に柔軟に対応することができると共に、デザインに対する好みにも柔軟に対応することができるバッグを提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１３】
【図１】本考案の一実施の形態に係るバッグの正面図である。
【図２】本考案の一実施の形態に係るバッグにおいて、バッグ本体に取り付けられる付属部材の一例を示す斜視図である。
【図３】本考案の一実施の形態に係るバッグにおいて、バッグ本体に取り付けられる付属部材の他の例を示す斜視図である。
【図４】本考案の一実施の形態に係るバッグにおいて、バッグ本体に取り付けられる付属部材の他の例を示す斜視図である。
【考案を実施するための形態】
【００１４】
以下、本考案を実施の形態に基づき、図面を用いて説明する。
【００１５】
１．本実施の形態に係るバッグの構成
図１は本実施の形態に係るバッグの正面図であり、本実施の形態においてはフラットバッグを例に挙げて説明する。また、図２～図４は、本実施の形態に係るバッグにおいて、

バッグ本体に取り付けられる付属部材の例を示す斜視図である。

【００１６】

図１に示すように、本実施の形態に係るバッグはバッグ本体２と、バッグ本体２の外側表面に取り付けられた付属部材（図１では、２個の方形のポーチ４）とを備えている。

【００１７】

（１）バッグ本体

本実施の形態において、バッグ本体２は、正方形状や長方形等の方形で袋状に形成されており、バッグ本体２の上辺には物をバッグ本体２に出し入れするための開口部（図示省略）が設けられている。そして、バッグ本体２の上辺には、帯状の部材が略逆Ｕ字形状に縫い付けられて手提げ部３が形成されている。バッグ本体２の素材としては、従来と同様に、布地、合成樹脂、皮等が好ましく使用される。

【００１８】

そして、バッグ本体２の外側表面には、ポーチ４などの付属部材を取り付けることができるように、テープ状部材２ｅがバッグ本体２の幅方向に沿って所定の間隔で２～３本（図１では３本）設けられている。

【００１９】

このテープ状部材２ｅは、取り付けられた付属部材の重さによって垂れ下がりが発生することを防止すると共に、取り付けられた付属部材の移動を防止するために、止着部２ｆの位置でバッグ本体２に縫い付けられて、バッグ本体２の幅方向に所定の間隔が形成されている。そして、２つの止着部２ｆの間の領域２ｇにおいて形成されるバッグ本体２の外側表面とテープ状部材２ｅとの間の隙間を利用して、ポーチ４などの付属部材を自在に取り付けることができるようになっている。なお、具体的な取り付け方法については後述する。

【００２０】

（２）付属部材

本実施の形態において、付属部材であるポーチ４は、図２～図４に示すように、バッグ本体２（図１参照）の高さ方向に沿って延びる帯状のベルト材４ｂが裏側に設けられている。このベルト材４ｂは、長さの１／２弱がポーチ４、４１、４２の裏面４ａ、４１ａ、４２ａに縫い付けられており、残りの１／２強を図１に示すバッグ本体２のテープ状部材２ｅを挟み込むように通して折り返した後、ベルト材４ｂの両端に設けられた留め具４ｃ（スナップボタン４ｄ、４ｅで構成されている）により係止させることにより、ポーチ４がバッグ本体２に取り付けられるようになっている。

【００２１】

なお、付属部材としては、図１や図２に示す方形のポーチだけでなく、図３に示す円形のポーチや図示しない半円形のポーチなどでもよく、また、図４に示すガマ口形状でもよい。そして、このようなポーチは、ガマ口、ガマ口ポーチなどとして使用することができる。

【００２２】

２．本実施の形態における付属部材のバッグ本体への取り付け方法

本実施の形態において、付属部材であるポーチは、以下のようにして、バッグ本体２へ取り付けることができる。

【００２３】

最初に、図２～図４に示すポーチ４、４１、４２を用意し、留め具４ｃによる係止を解除することにより、２つ折りされて係止されていたベルト材４ｂを延ばす。なお、図２、図３においては、２つ折りされて係止されているベルト材を紙面左側に示し、係止が解除されたベルト材を紙面右側に示している。

【００２４】

次に、伸ばしたベルト材４ｂの先端部を、図１に示す２つの止着部２ｆの間の領域２ｇにあるテープ状部材２ｅとバッグ本体２の外側表面との間の隙間に通し、テープ状部材２ｅを挟み込むように通して折り返す。その後、図２に示すように、スナップボタン４ｄを

スナップボタン４ｅに嵌めることにより留め具４ｃが形成されて、バッグ本体２の外側にポーチ４、４１、４２を取り付けることができる。

【００２５】

なお、ポーチ４をバッグ本体２から取り外す際には、上記の手順と逆にすることにより、容易にバッグ本体２から取り外すことができる。

【００２６】

３．本考案による効果

本考案によれば、上記したように、バッグ本体にテープ状部材を設けると共に、付属部材にベルト材を設けて、バッグ本体への付属部材の取り付け、取り外しを自在に行うことができる。

【００２７】

このため、種々の付属部材を用意して、使用者の活動状況に応じて、必要と思われるそれぞれの付属部材を予めバッグ本体の外側に取り付けてバッグをカスタマイズしておくことにより、その都度、バッグの出し入れ口を開く必要がなくなるため、使用者のバッグの機能性に対する要求に柔軟に対応して、使用者の各々にとって必要な機能性が十分発揮される極めて使い勝手の良いバッグとすることができる。

【００２８】

そして、このような種々の付属部材を取り付ける際には、使用者自身がそのデザイン性を考慮して各々を好みの位置に取り付けることができるため、機能性のカスタマイズに留まらず、デザインのカスタマイズを図ることができ、使用者毎にオンリーワンのバッグとすることができる。

【００２９】

なお、上記においては、付属部材としてポーチを取り付けているが、デザインのカスタマイズの面からは、ワッペンやアップリケなどを別途用意して取り付けることもできる。なお、この際には、裏側にベルト材を設けず、クリップやピンなどを用いてテープ状部材に留めつけてもよく、これにより、さらにデザインのカスタマイズを図ることができる。

【００３０】

そして、バッグとしては、上記したフラットバッグに限定されず、トートバッグやボストンバッグなどについても同様に機能性やデザインのカスタマイズを図ることができる。

【００３１】

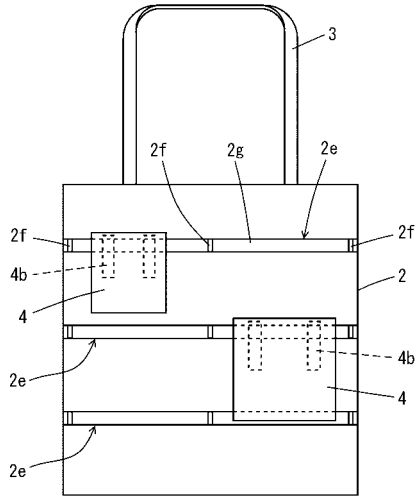
以上、本考案を実施の形態に基づいて説明したが、本考案は上記の実施の形態に限定されるものではない。本考案と同一および均等の範囲内において、上記の実施の形態に対して種々の変更を加えることができる。

【符号の説明】

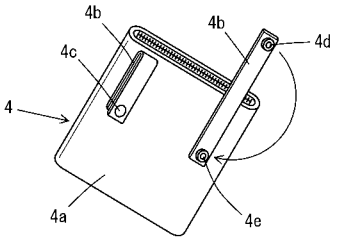
【００３２】

２	バッグ本体
２ｅ	テープ状部材
２ｆ	止着部
２ｇ	止着部の間の領域
３	手提げ部
４、４１、４２	ポーチ
４ａ、４１ａ、４２ａ	ポーチの裏面
４ｂ	ベルト材
４ｃ	留め具
４ｄ、４ｅ	スナップボタン

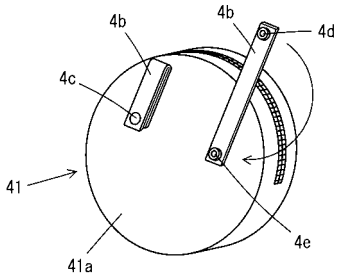
【図１】


3
2f
2g
2e
2f
2f
4b
2
4
4b
2e
4
2e

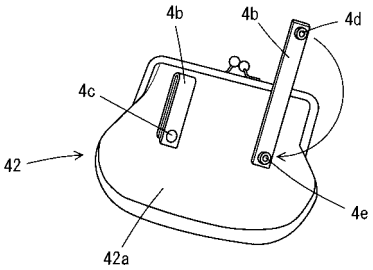
【図２】


4b
4b
4d
4c
4
4a
4e

【図３】


4b
4b
4d
4c
41
4e
41a

【図４】


4b
4b
4d
4c
42
4e
42a